

2023.10.20 日本農業労災学会設立10周年記念シンポジウム
『新たな農業労災学の展望と農作業事故の根絶を目指して』講演資料

農業労災学の新たなパラダイムと方法論開発 のイノベーションの方向

日本農業労災学会 前会長 門間敏幸
(東京農業大学名誉教授)

講演内容

1. 日本農業労災学会10年間の歩み
2. 日本農業労災学会の主要研究成果
3. 「実践農業労災学」の構築方向

日本農業労災学会設立 10 周年記念シンポジウム

『新たな農業労災学の展望と農作業事故の根絶を目指して』



この子たちの笑顔
がいつまでも続く

<開催日時・場所>

- ◆開催日時：
2023年10月20日
(金) 10:00~16:35
- ◆開催場所：
東京農業大学 世田谷キ
ャンパス 横井講堂
- ◆開催方法：
対面とOnlineのハイブ
リッド開催



<開催プログラム>

- ◆10:00~12:00
個別報告
第3回学会賞表彰式
- ◆13:00~16:35
シンポジウム
- ◆17:00~18:30
記念祝賀交流会



第Ⅱ部 パネルディスカッション 15:00~16:35

- ◆テーマ
「農作業事故の根絶を目指して-自
助・共助・公助の連携を創る」
- ◆司会進行
緒方大造 (日本農業新聞論説委員)
半杭真一 (東京農業大学准教授)
アドバイザー：白石正彦 (東京農業
大学名誉教授)
- ◆参加予定パネリスト
農業者・農業法人代表 (自助)
JA 代表 (共助)
農林水産省農産局 (公助)
日本農村医学会 (共助)
社労士代表 (共助)
農機メーカー代表 (共助)

第Ⅰ部 記念講演 13:25~14:45

- 講演1 農業労災学の新たなパラダイムと方法論開発のイノベーションの
方向
日本農業労災学会 前会長 門間敏幸 (東京農業大学名誉教授)
- 講演2 利用者にやさしい農業機械開発の現状と今後
日本農業労災学会 副会長 田島 淳 (東京農業大学教授)
- 講演3 農業者の命を守る法制度・労災補償の課題と今後の展開方向
日本農業労災学会 理事 中村雅和 (いのしし社会保険労務士事務所
所長)
- 講演4 JA グループの農業労災の安全対策と労災補償対策の取り組みの
実態・課題と今後の展開方向
日本農業労災学会 副会長 宮永 均 (JA はだの代表理事組合長)

<問合せ・申込先> 日本農業労災学会事務局

〒184-0004 東京都小金井市本町 1-8-14 サンリーブ小金井 305 キリン社会保険労務士事務所内
TEL ⇒ 042-316-6420 FAX ⇒ 042-316-6430 、E-mail : kuroda@kirin-office.com

日本農業労災学会の歩みをシンポジウムとワークショップからトレースする

表 1 - 1 日本農業労災学会シンポジウム・ワークショップテーマと報告一覧（10年間）

第3回農業 労災ワーク ショップ	<p>テーマ□ 「海外に学ぶ農作業事故防止・労災補償対策—アイルランドなど欧州と韓国の取り組みを中心に—」</p> <p>◆ILO『農業における人間工学的チェックポイント』における農作業安全対策 —日本語版の翻訳と発行を通して—/田島 淳 ◆世界最先端を行くアイルランドの農作業安全/山田 優 ◆韓国の農作業安全と農業者災害保険事業/金 京蘭・崔 東弼</p>
2023年6月1 日（木）	
第9回シンポ ジウム	<p>テーマ□ 「農業労災補償制度を拡充し、農作業事故防止に資するためには何が必要か —社労士とJA・行政等関係機関との連携を考える—」</p> <p>◆特別加入制度における一人親方制度の拡充と農業労災の対応/田中建一 ◆農林水産省における農作業安全対策の取組/田中康嗣 ◆建設業の労災補償対策における社労士の役割と課題/矢島友幸 ◆農業労災防止への「社労士からの講演（説明）事例」紹介/堀内政徳 ◆JA現場における労災補償・農作業事故防止対策への取り組み/桐原 章</p>
2022年10月 21日（金）	
第2回農業 労災ワーク ショップ	<p>テーマ「農機事故防止対策をいかに進めるか」</p> <p>◆農機事故事例と安全研修/気多 正 ◆農作業安全に対する取り組み/稲垣勇一</p>
2022年6月2 日（木）	

表 1 - 2 日本農業労災学会シンポジウム・ワークショップテーマと報告一覧（10年間）

第8回シンポ ジウム	<p>テーマ□ 「農作業事故防止のために産官学と農協・社労士グループとの連携をどう進めるか —農作業安全対策の新たな展開方向を踏まえて—」</p> <p>◆農作業事故防止安全対策の現段階と今後の展望/田島 淳 ◆安全性検査の充実と受検率の向上・連携のあり方/藤井幸人 ◆JAグループの農作業安全とGAPの取り組み/高橋昭博 ◆北海道における農作業事故防止の取組について/瀬野俊彦 ◆JITCO保険にみる技能実習生の疾病について/成井貞行 ◆兼業・副業に係わる農作業安全対策と農業労災制度の役割/中村 仁</p>
2021年10月 22日（金）	
第1回農業 労災ワーク ショップ	<p>テーマ「農業労働安全対策の取り組みと農作業安全対策の支援ツール」</p> <p>◆農林水産省における農業労働安全対策の取組/田中康嗣 ◆実効性のある農作業対策を支援するウェブコンテンツの開発/積 栄</p>
2021年6月3 日（木）	
第7回シンポ ジウム	<p>テーマ□ 「農業者・農協等関係団体の連携強化による農業労働安全・労災補償対策の実践 —GAPを中心に—」</p> <p>◆農業分野における農業者・関係者参加型の労働災害防止の方法—GAPを中心に —/門間敏幸 ◆グローバルGAPの団体認証取得によるブロッコリーのブランド化と労働安全対策に ついて/菅野史拓 ◆女性農業者との農業機械開発と安全対策/野口貴弘 ◆JAたじま GLOBAL G.A.P. 認証取得—労働安全管理面の取り組みについて—/ 谷垣 康 ◆農業労働安全拡充・労災補償対策のための社労士による参加型取り組み/ 中村雅和</p>
2020年10月 23日（金）	

1.日本農業労災学会10年間の歩み

日本農業労災学会の歩みをシンポジウムとワークショップからトレースする

表 1 - 3 日本農業労災学会シンポジウム・ワークショップテーマと報告一覧（10年間）

第6回シンポジウム	<p>テーマ「GAPを活用した農業労働安全対策の組織的・戦略的展開」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆GAPによる安全な労働環境整備の戦略的な実践方法について／門間敏幸□ ◆第三者認証によるGAPの現況と労働安全／荻野 宏 ◆団体でのGAPの取組と農作業安全対策の実践／城向孝洋 ◆福島県におけるGAPの推進と農作業安全／半杭真一 ◆JAいわて平泉のブランド米「金色の風」栽培研究会による「ASIAGAP団体認証」取得と農作業安全対策の取り組み／小野正一
2019年5月17日【金】	
第5回シンポジウム	<p>テーマ「農業労災事故防止技術・仕組み開発の新たなチャレンジ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆農業ロボット技術による農作業事故防止の可能性／長坂善禎□ ◆農業情報技術による農作業事故防止の可能性／手島 司 ◆『農業における人間工学的チェックポイント—農業における安全改善、健康改善、労働環境改善のための実践的・実行しやすい解決法—』に見る効果的な事故防止対策について／田島 淳 ◆農村医学の視点から見た農作業事故防止の方策／菊池 豊 ◆実態調査から見た農作業事故の問題点と対策／大浦栄次 ◆農協組織における実践的な事故防止対策／兼高秀樹 ◆農作業中の事故撲滅のために／矢島友幸
2018年5月18日【金】	
第4回シンポジウム	<p>テーマ「農業労災事故防止を支える自助・共助・公助連携の取り組みと課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今後の農作業安全対策の 取り組みについて／今野 聡 ◆JAグループの営農支援方策と農作業安全・労災補償に関する取り組みと課題／都筑伸一 ◆農作業安全実現の取り組みの到達点と展開方向／河辺哲也 ◆JAグループと社会保険労務士グループが連携した農作業安全・労災補償に関する取り組みと課題～広島県の取組～／木山恭子 ◆実態調査から見た農作業事故の問題点と対策／立身政信
2017年5月12日【金】	

表 1 - 4 日本農業労災学会シンポジウム・ワークショップテーマと報告一覧（10年間）

第3回シンポジウム	<p>テーマ「農業労災予防の組織的マネジメントと労災補償対策の課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆労災予防の組織的マネジメントと安全衛生教育の課題／松葉 斉 ◆農作業機械化と事故防止の課題／田島 淳 ◆新規就農者教育の新動向と農業法人の事故防止・補償システムづくりの課題 <ul style="list-style-type: none"> I JA出資型農業法人経営における新規就農者育成と農業労災予防の取り組み—(有)信州うえだファームの実践—／船田寿夫 II 若手雇用による高付加価値型農業法人経営の展開と農業労災予防・補償システムづくりの課題／小笠原みゆき ◆農業労災予防の組織的マネジメントの課題／松岡公明
2016年5月13日【金】	
第2回シンポジウム	<p>テーマ「農業法人経営における農業労災のマネジメントと補償対策」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆農業法人経営における農作業事故・事故防止対策の実態と農業労災マネジメントの課題—日本農業法人協会会員に対するアンケート分析を中心として—／原 温久・北田紀久雄 ◆農作業事故の発生要因と事故防止のための支援のあり方について／志藤博克 ◆農業法人経営の実態と農業労災事故の予防・補償対策の課題—(有)せりたでの実態と経験を踏まえて—／芹田省一・犬田 剛 ◆農業協同組合における農業法人経営・集落営農を中心とした農業労災事故予防・労災補償対策／清水 薫 ◆農業法人経営における労災補償対策を支援する社労士グループの役割／入来院重宏
2015年5月15日【金】	
第1回シンポジウム	<p>テーマ「農業労災学の体系化・実証的解明の基本課題と農作業事故予防ノウハウ・労災補償対策の革新方向」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆農作業安全対策と平成24年農作業死亡事故調査結果について／松岡公明 ◆日本農業労災学会がめざす事故予防ノウハウと労災補償対策／三廻部真也 ◆農業労災学における農業経営研究の課題—農業経営における労働災害対策との関連で—／門間敏幸 ◆系統農協の農作業事故予防・労災補償活動の現状と課題／早川 至・白井 稔 ◆秦野市農業協同組合の農業労災予防・労災補償対策の問題点と革新方向／宮永 均
2014年10月1日【金】	

「農業労災研究」報告課題の分類

表2 「農業労災研究」報告課題の研究内容区分

海外の農業労働災害対策紹介	2
農業労働安全対策実践マニュアル	2
GAPによる労働災害防止方法	9
農業機械の安全対策	6
農業労働安全施策・対策の紹介	4
社労士による労災補償の取り組み	6
JAによる農作業事故防止対策の紹介	7
農業法人の事故防止対策	4
農作業事故実態・要因分析・防止対策	5
他産業の労働災害対策紹介	2
農作業安全指導・研修・教育	2
農業労災予防マネジメント研究	3
農業労働安全支援システム	2
計	54

表3 「農業労災研究」報告課題の研究領域区分

労働安全政策・対策（国内・海外）	7
労災保険・補償制度	7
労働手段の安全対策	7
実践的な労働安全対策提案	12
農業者・JAの労働安全活動事例	12
農作業事故実態/ 要因解析	5
農業労災学の構築視点	4
計	54

「農業労災研究」報告課題の特徴

- ◆表1-1～1-4は、「農業労災研究」（第1号～第9号）に掲載された54の報告・論文の一覧である。また、表2、表3は、これらの報告・論文を研究内容、研究領域ごとに整理したものである。
- ◆研究内容としては**農業労働安全に関する13項目**を、研究領域としては**7つの領域**を整理できる。
- ◆研究内容で多いのは、「GAPによる労働災害防止方法(9)」「JAによる農作業事故防止対策の紹介(7)」「農業機械の安全対策(6)」「社労士による労災補償の取り組み(6)」「農作業事故実態・要因分析・防止対策(5)」である。
- ◆研究領域としては、「実践的な労働安全対策提案(12)」「農業者・JAの労働安全活動事例(12)」「労働安全政策・対策(7)」「労災保険・補償制度(7)」「労働手段の安全対策(7)」である。
- ◆10年間の学会活動の特徴として、**JA、農業法人における先駆的な労働安全の取り組み**を紹介するとともに、**農家・従業員が参加して労働安全を実現するためのリスクマネジメント手法の開発、労災保険・補償制度に社労士とJAが一体で取り組む先駆的事例の掘り起こしと紹介**を行ってきた点が特筆できる。

2.日本農業労災学会の主要研究成果（事故発生要因の分析）

表4 農業法人の農作業事故発生を規定する要因に関する分析結果

アイテム	カテゴリー	レンジ	カテゴリースコア	サンプル数
従事者数	1 1～9人	1.630	-0.825	124
	2 10～19人		0.540	82
	3 20人～		0.805	72
65歳以上の従事者の有無	1 いる	0.682	0.257	105
	0 いない		-0.424	173
労災保険特別加入制度の加入の有無	1 加入している	0.379	-0.131	96
	0 加入していない		0.248	182
経営形態	1 生産	0.962	-0.485	87
	2 生産・直売		-0.045	94
	3 生産・直売・加工・観光		0.478	97
	4 生産・直売・加工・観光		0.478	97
生産地の立地条件	1 都市化・都市近郊地域	0.607	-0.330	31
	2 平地農村地域		-0.164	132
	3 中山間地域		0.277	115
相関比		0.332		
判別的中率		64.4%		

表5 農業法人の農作業事故防止対策の実施を規定する要因に関する分析結果

アイテム	カテゴリー	レンジ	カテゴリースコア	サンプル数
従事者数	1 1～9人	0.896	-0.353	124
	2 10～19人		0.057	82
	3 20人～		0.543	72
65歳以上の従事者の有無	1 いる	0.091	0.034	173
	0 いない		-0.057	105
労災保険特別加入制度の加入の有無	1 加入している	0.960	0.331	182
	0 加入していない		-0.628	96
経営形態	1 生産	0.731	0.215	87
	2 生産・直売		0.273	94
	3 生産・直売・加工・観光		-0.458	97
	4 生産・直売・加工・観光		-0.458	97
生産地の立地条件	1 都市化・都市近郊地域	0.275	-0.159	31
	2 平地農村地域		-0.064	132
	3 中山間地域		0.117	115
農作業事故の有無	1 農作業事故有り	1.438	0.724	138
	0 農作業事故無し		-0.714	140
相関比		0.292		
判別的中率		62.6%		

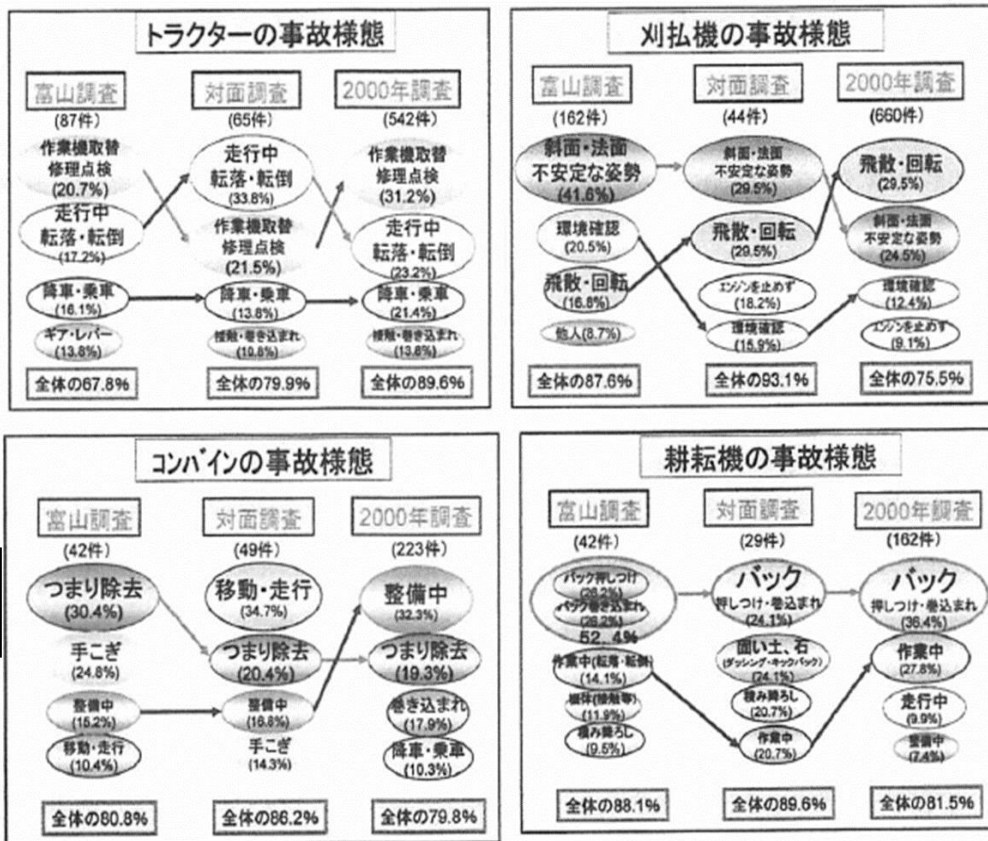
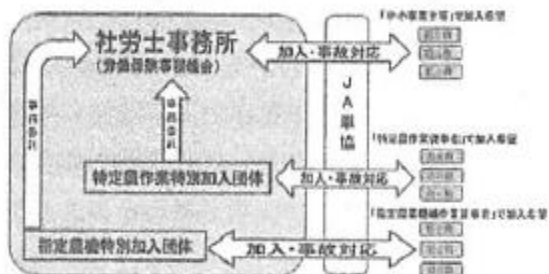


図1 3つの事故調査に基づく農作業事故様態の分析

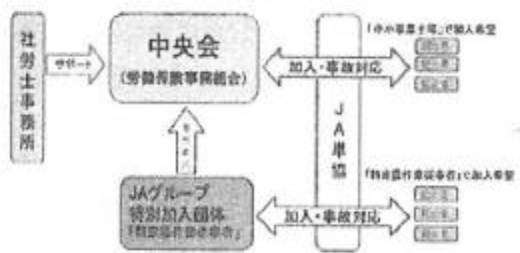
出所：大浦栄二(2019)：「農村医学の視点から見た農作業事故防止の方策」『農業労災研究』5(1)、26-30.

出所：原 温久・北田紀久雄(2016)：「農業法人経営における農作業事故・事故防止対策の実態と農業労災マネジメントの課題」『農業労災研究』2(1)、3-11.

2.日本農業労災学会の主要研究成果（労災保険・補償対策）



その1



その2

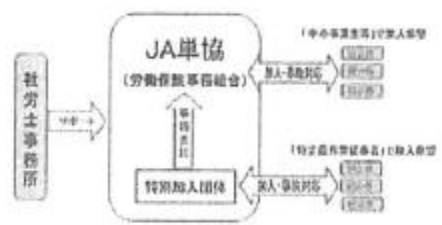


図2 JAをサポートする社労士の活動例

出所：入来院重宏(2016)：「農業法人経営における労災補償対策を支援する社労士グループの役割」『農業労災研究』2(1)、38。

表6 長野県JAにおける農作業安全・労災保険の取り組み状況

JA名	労災保険の事業取扱			農作業安全への取り組み具体策							
	労働保健事務組合	特定農業機械作業従事者の特別加入団体	特定農作業従事者の特別加入団体	1. 年間取り組み計画の策定	2. 事故発生状況の把握	3. 農作業安全推進運動の実施	4. 広報紙、ポスター、チラシによる啓発活動の実施	5. 農作業安全に関する研修会・座談会等の実施	6. 労災保険加入推進の実施	7. その他	8. 実施していない
A農協	○					○	○		○		
B農協	○			○	○	○	○	○	○	○	
信州うえだ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
C農協	(検討中)	(検討中)	(検討中)			○	○	○			
D農協	○	○	○	(検討中)	○	○	○	○	○		
E農協	○					○	○		○		
F農協							○	○			
G農協		○					○	○			
H農協	○	○	○					○			
I農協	○		○			○	○		○		
J農協							○				
K農協	○	○	○					○	○		
L農協	○	○	(検討中)	○	○	○	○	○	○		
M農協	(検討中)	(検討中)	(検討中)			○	○	○	○		
N農協		○	○			○	○	○	○		
O農協							○	○	○		
P農協	○	○	○		○	○	○	○	○		
Q農協						○	○	○	○		
R農協	○	○	○			○	○	○	○		
S農協	○	○	○				○	○	○		
合計	12	10	9	4	5	13	19	10	15	1	0

出所：船田寿夫(2017)：「JA出資型農業法人経営における新規就農者育成と農業労災予防の取り組み」『農業労災研究』3(1)、22。

2. 日本農業労災学会の主要研究成果 (リスクアセスメント)

表7 農作業のリスクアセスメント演習様式

作業名	集落営農組織による土手の草刈り作業	実施年月日	平成○年○月○日	実施者	○○○○○○	承認者印	推定実施後のリスクの見積もり			備考
							リスクの見積もり	リスク低減対策(提案)	重篤度	
作業過程(作業手順)	危険性または有害性と発生のおそれのある災害	既存の災害防止策	重篤度	発生可能性	優先度	重篤度	発生可能性	優先度		
①作業前のミーティング忠告	熱中症で死亡 { 腰痛、周囲に人を寄せない 顔面の刺激と足の切断等 }	野球帽・汗ふき手ぬぐい指導なし	×	×	Ⅲ	△	△	Ⅱ		
②草刈り機作業の始業前点検	試運転で音、回転状況、刃の切れ具合を点検する	エンジンの試運転のみ	△	△	Ⅲ	△	△	Ⅱ		
③土手に撥や缶、大きな石がないか点検する	草刈り機の回転刃が当たり、破片が身体を刺傷、機械が破損する	簡単に現場を見ていた	△	△	Ⅱ	△	△	Ⅰ		
④安全指導係を配置して通行人や自転車を確認する	通行人や自転車に草刈りの破片や草刈り機が当たる事故	なし	×	×	Ⅲ	△	△	Ⅱ	一点集中作業騒音	
⑤作業員の草刈り範囲を決めて人員配置する	草刈り範囲を決めて接触事故を防ぐ	作業範囲は決めていたが「安全」は個人任せだった	×	×	Ⅲ	△	△	Ⅱ	刃にからみついた草はエンジンを必ず止めて除去する	
⑥草刈り機の騒音と一点集中作業の危険性	草刈り機の騒音と一点集中で周囲の状況が全く分からないことから人に危険を及ぼす	共同作業なのに「労働安全」のリーダーがいなかった	×	×	Ⅲ	△	△	Ⅱ	草刈り機事故の恐怖さを知らせる	
⑦斜面に沿って草を刈り落とす	草のつるや異物が歯先からまわりついて急停止する可能性がある。エンジンを止めないで取り除くと急回転して指先が切断される	手抜きをしてエンジンを止めないで危険性が高かった	×	×	Ⅲ	△	△	Ⅱ	足が滑らない靴を履くこと	
⑧草取り作業終了後に土手から農道へ立ち上がる	刈り倒した草の上を踏みつけて足が滑り転倒する	なし	×	×	Ⅲ	△	△	Ⅱ	刈り倒した草が土手下にそろうように刈る	
⑨熱中症対策	熱中症でその日のうちに死亡する	水分補給当番が茶水を配布した	×	×	Ⅲ	△	△	Ⅱ		

凡例：※災害の重篤度 ×=死亡・休業1カ月以上、△=休業1日以上

※発生可能性 ×=可能性が高い、△=可能性がある、○=可能性はほとんどない。

※優先度：Ⅲ=直ちに解決すべき重大なリスクがある、Ⅱ=速やかにリスク低減措置を講じる必要がある、Ⅰ=必要に応じてリスク低減措置を実施すべきである。

2. 日本農業労災学会の主要研究成果 (実践活動支援システム、リスクアセスメント)

表8 GAPによる安全な労働環境整備 の戦略的な実践モデル

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<ステップ4> GAPによる労働安全の実現と新たな産地づくりの展開による持続型農業経営・産地の実現	<労働事故ゼロ、地域の生産・生活環境を守り安全な農産物を持続的に生産する地域農業の実現> <市場、実需者、販売組織、消費者等、多様な顧客との継続・安定取引ができる産地の実現> <多様な顧客に責任をもって農産物を供給できる経営者の確保>	<目標達成指標> 1) GAP団体認証の持続的取得 2) 労働事故ゼロ 3) 安定取引先の確保 (〇組織) 4) GAP認証取得の有利性の実現 (選ばれる産地となる)。産地ブランドの確立 5) GAPの取り組みを自主的に実施できる経営者の確保 (〇人)	<アクションの内容> ◆ 審査・登録料の低減の方策の検討 ◆ GAPの取り組みによる農産物の品質向上 (ブランド案件の設定) による選ばれる産地の実現 ◆ 産地の取り組みのPR活動の展開 ◆ GAP実践優良経営の表彰 ◆ 労働事故ゼロ部会、労災保険加入優良部会を表彰
<ステップ3> GAPによる労働安全活動の実践と評価、他の部会への展開	<GAPを基本とした持続的労働安全運動の展開と取り組みの拡大> <取り組みを他の部会にも拡大する>	<目標達成評価指標> ◆ 継続的な認証取得と労働事故防止・軽減の実現 1位: 死亡事故ゼロ 2位: 毎年、事故件数を半減させる 3位: 労災保険加入促進 ◆ GAP団体認証取得を目指す部会名 (〇〇部会、〇〇部会等)	<アクションの内容> ◆ 参加農家の巡回指導 (年〇回) ◆ 労働安全講習会の開催 (年〇回) ◆ ヒヤリハット発表会 (半年1回) - 労働安全点検運動に合わせて実施 ◆ 労災保険加入説明会開催 (年2回) ◆ GAP実践を目指す部会への説明と説得 (随時行う)
<ステップ2> 労働事故リスクの抽出とリスク対策手段の整理	<参加農場ごとに労働事故リスクを明確にする> <事故の発生頻度と重篤度を明確にする> <リスク対策を明らかにする> <リスク対策実施の確認方法の明確化>	<目標達成評価指標> ◆ 参加農場ごとのリスクと発生頻度のリストアップ (全農場) ◆ 事故発生の高重篤評価 (全事故) ◆ 事故の防止・軽減対策のリストアップと実施課題を整理 (すべての事故対策) ◆ 労働事故防止・軽減対策のマネジメントマニュアル開発	<アクションの内容> ◆ ワークショップ、ブレーンストーミング (開催時期と回数) ◆ TN法によるリスクの特性評価 ◆ TN法による事故防止・軽減対策の有効性評価 ◆ TN法分析結果に基づく労働事故防止・軽減対策のマネジメントマニュアルの作成 (事務局) ◆ 部会員による承認
<ステップ1> GAP団体認証取得意欲の啓発と合意形成	<産地づくり目標> ◆ 羅針盤となる目標を作る ◆ 部会員の意欲向上戦略 ◆ GAPの取り組み意欲を高める <GAP団体認証組織づくり> ◆ GAP団体認証に取り組み部会を組織化する	<目標達成評価指標> ◆ 部会員のGAPの認知率 (%) ◆ GAP参加希望農家率 (%) ◆ GAP団体認証に取り組み部会数 部会1: () 部会2: () 部会3: ()	<アクションの内容> ◆ 説明会の開催 (開催時期と回数) ◆ GAP取り組みの先進地視察 ◆ 部会長の挨拶 ◆ 部会員の意思確認 ◆ 合意を得た部会員で取り組みか、全員参加で取り組みかの決定

出所：門間敏幸(2015)：「GAPによる安全な労働環境整備の戦略的な実践方法」『農業労災研究』6(1)、9。

表9 農作業のリスクアセスメント評価票

部会メンバーが抽出した農業労働安全に関わるリスクの評価票

評価者氏名() 年齢(歳) 性別 〇男性 〇女性 農場面積(アール)
部会で扱う作物の生産面積(アール)

想定される以下の事故について、その発生可能性、発生した場合の事故の深刻さ、あなたの農場で発生する確率を5段階で評価してください。評価基準(5=とても大きい 4=やや大きい 3=普通 2=やや小さい 1=小さい)を〇で囲んでください。

想定される事故	リスクの発生可能性	発生した場合の事故の深刻度	あなたの農場で発生する確率
1 脚立などに乗った高所作業	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
2 トラクタによる事故	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3 耕耘機による事故	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
4 コンバインの転倒	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
5 コンバインのバック時の事故、刈取部への挟まれ	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
6 トラクタやトラレーラの荷物の積下し時の事故	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
7 草刈り時の事故	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
7 農業機械走行時の傾斜や段差での事故	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
8 農業機械道路走行時の事故	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

図6 労働安全に関わるリスク評価票

部会メンバーが抽出した農業労働安全に関わるリスク防止・軽減対策の評価票

評価者氏名() 年齢(歳) 性別 〇男性 〇女性 農場面積(アール)
部会で扱う作物の生産面積(アール)

皆様が提案された事故のリスク防止・軽減対策について、対策の実施効果、対策実施の容易性、対策実施の費用を5段階で評価してください。評価基準(5=とても大きい 4=やや大きい 3=普通 2=やや小さい 1=小さい)を〇で囲んでください。

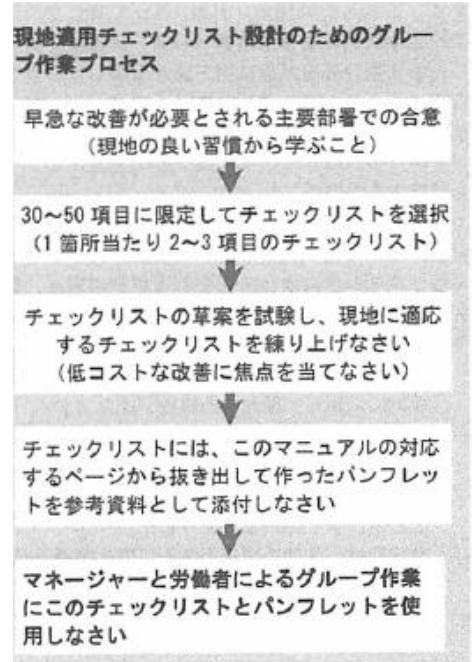
提案された事故対策	対策の実施効果	対策実施の容易性	対策実施の費用
1 危険作業は必ず複数で行う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
2 危険箇所を把握して安全対策を施す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3 誤った機械操作をしないように注意事項を機械に貼り付ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
4 転倒危険アラームを機械に取付ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
5 機械に挟まった異物を取り除くときは、機械を止めて行う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
6 草刈り事故防止用具の装備(ゴーグル、手袋、安全靴)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
7 複数で行う草刈り作業は離れて行うように場所を指定する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
8 交通法規を守った運転心がける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
9 事故が起こりやすい時間帯の危険作業は避ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

出所：門間敏幸(2015)：「GAPによる安全な労働環境整備の戦略的な実践方法」『農業労災研究』6(1)、10。

2. 日本農業労災学会の主要研究成果（実践活動支援手法）

目次

- はじめに..... iii
- はしがき..... v
- マニュアルを使用するための提案..... ix
- 農業における人間工学的チェックリスト..... xv
- 資材の保管と取り扱い..... 1
(チェックポイント1~14)
- 作業場と器具..... 31
(チェックポイント15~28)
- 機械の安全..... 61
(チェックポイント29~40)
- 農耕用車両..... 87
(チェックポイント41~48)
- 物理的な環境..... 105
(チェックポイント49~61)
- 危険な薬品の管理..... 133
(チェックポイント62~66)
- 環境保護..... 145
(チェックポイント67~72)
- 福利厚生施設..... 159
(チェックポイント73~80)
- 家族と地域の協力..... 177
(チェックポイント81~88)
- 作業組織と作業日程..... 195
(チェックポイント89~100)



ILO 農業における人間工学チェックポイントアプリ版



図3 『農業における人間工学的チェックポイント』の内容

出所：国際労働機関・国際人間工学会 共同制作、日本農業労災学会 日本語監修(2023)：『ILO 農業における人間工学的チェックポイント』、東京農業大学出版会・Ⅶ、Ⅹ。

表10 機械設備に関するチェックポイントと対応の種類

No	チェックポイント	分類
29	必要な安全ガードや予防策が組み込まれた機械を購入する	保護装置
30	機械の危険な可動部位には適正なガードを取り付ける	防護装置
31	適切な供給装置を使用して危険を回避し、生産を増やす	装置の組み合わせ
32	農場で使用する場合は、安定した場所に機械を配置する	設置場所
33	パートナーと作業し、可能な限り単独作業を避ける	単独作業の回避
34	機械の整備状態を良好に保ち、壊れた箇所や不良部品がないことを確認する	機械整備
35	機器や照明にのコンネクターが安全で確実であることを確認する	電気設備の容量
36	安定したグリップを備えた手持ち電動工具を使い易い位置で使用する	手持ち工具のグリップ
37	操作が簡単で、手を離すと自動的に停止する方式の機械を使用する	操作装置の構造
38	ホイストとクレーンが指定された荷重制限を守り安全のための予防策に従って操作されていることを確認して下さい。	荷重制限、資格、事故予防
39	偶発的な作動を防ぐために、機械制御装置を保護する。	誤操作防止策
40	非常停止用スイッチを見つけやすく操作し易くする。	緊急停止策

出所：田島淳(2019)：学会監修翻訳「『ILO 農業における人間工学的チェックポイント』 - 農業における安全改善、健康改善、労働環境改善のための実践的・実行しやすい解決法 - にみる効果的な事故防止対策について」、『農業労災研究』、5(1)、19。

「農業労災研究」の主要成果の特徴

- ◆表6～10、図1～3は、『農業労災研究』（第1号～第9号）に掲載された主要成果の一部を抜粋したものである。
- ◆表4、表5では、農業法人に対するアンケート調査に基づき農作業事故の発生原因と事故防止対策を評価し、地域の特徴、従業員属性、労災保険特別加入制度への加入の有無が影響していることを解明している。図1は農作業事故の様態を、3つのタイプの事故調査を比較分析してその実態を克明に解明している点に大きな特徴がある（**事故実態と事故要因の解明**）。
- ◆図2と表6は、**社労士とJAが連携して労災保険特別加入促進と補償対策を推進している事例**である。日本農業労災学会のシンポジウムでは、社労士とJAが連携した労災保険特別加入促進に関する様々な優れた取り組みが紹介されている。この点は**日本農業労災学会の大きな貢献**として評価できる（**社労士とJAが連携した労災保険特別加入制度への参加促進事例の蓄積**）。
- ◆表7、表8、表9は、営農現場で実践できる実用的な**リスクアセスメント手法の提案、GAPにおける労働安全対策の考え方を応用して、JAにおける営農組織、農業法人などで実践的に取り組むことができる労働安全対策実施モデルを提供したものである**。実践的な労働安全対策実施のための支援手法を開発したという点で評価できる（**リスクアセスメント手法、実践的な労働安全対策実施支援手法の開発**）。
- ◆図3、表10は、学会が監修して翻訳を行いスマホアプリ並びに翻訳書として出版されている『ILO 農業における人間工学的チェックポイント』の一部を整理したものである。この成果は、世界標準の労働安全、労働者の健康保持、快適な生産環境づくりに農業労働者・指導者が一体となって活用できるものである。**学会として今後の普及を推進すべき成果である（『ILO 農業における人間工学的チェックポイント』の翻訳）**。

＜実践農業労災学の構築理念と目的＞

- ◆日本農業労災学会がめざす実践農業労災学の構築理念は、「農業者の命の非常事態」宣言に明確に示されている。すなわち、毎年の農業者の死亡事故300人前後、農作業事故年間7万件前後（JA共済連推計）という**農作業事故の撲滅をめざすのが学会の理念であり目的**である。
- ◆このことは、農業の担い手の高齢化、農業法人等の企業経営体の増加、農業機械・施設の大型化・高性能化という状況の中で、**農業が“危険産業”化するとともに、事故が及ぼす影響はますます多方面に大きな影響を及ぼすようになっている。**
- ◆**安心・安全な作業環境、職場づくり**は、持続的農業実現の最も重要な対策であり、農政の最重要課題である。
- ◆日本農業労災学会の創立趣旨に明示したように、これまでの労災防止研究における注意力を喚起する抽象的な理論やパフォーマンスに陥ることなく、世界の潮流である**危険ゼロをめざすリスクアセスメント手法**を機能させる時代に入ってきている。**【農業者の命の非常事態】**の解消を目指して産官学連携の**プラットフォームの中核学術団体**として、高い危機意識とヒューマニズムをもって**実践的な労働安全実現手法を開発して普及**することをめざす。

＜農作業事故防止のための戦略的支援システムの開発＞

- ◆ 事故原因の徹底的な解明に基づく**安全な農機具の開発と安全な使用法**に関する実践的でわかりやすいマニュアルの開発。また、農機具の安全な開発と普及のための**法制度の解明**に関する研究が求められる。農業機械、人間工学、社会科学、法学などの学際的研究が不可欠となる。
- ◆ 農業従事者、JA、社労士などが一体となって、農作業や作業現場に潜むリスクを体系的に解明し、作業者自らがその危険度を評価して対応できる**リスクアセスメントのための方法を開発**する。また、実施した（実施すべき）**事故防止対策の事前・事後評価のためのアセスメント法を開発**して普及する。
- ◆ 三廻部、門間等の研究グループが明らかにした**農作業のリスクアセスメント、GAPを活用した戦略的労働安全管理システム**を社会実装していくための**教育・訓練システムの開発**を農家、JA、社労士が一体となって開発することが求められる。
- ◆ 農作業安全、健康改善、労働環境改善に関わる**ILOの農業における人間工学チェックポイント**については、世界中の多くの国々で実践され成果を上げている。翻訳書の出版だけにとどまらず、**この成果の普及・実践**に向けてJAや専門家などが中心となって推進する必要がある。また、必要であるならば、日本農業、農家の特徴に従ってその内容を改善する必要もある。

＜全国・地域レベルの農作業安全推進方策と合理的な労働安全活動展開のための組織論の構築＞

- ◆ 農業では一人親方が中心で、事故を自己責任で処理してしまう傾向が強い。こうした農家の意識改革、農業法人やJAの営農組織などにおける組織的な労働安全活動の展開が重要である。こうした労働安全活動を組織的に展開するためには、**地域レベル、都道府県レベル、国レベルでの活動展開・支援体制**が重要である。
- ◆ こうした活動には農業者、JA、社労士、農機具メーカー、研究者、国・都道府県の行政担当者が参加するとともに、**安全活動を中心となって推進する指導者**が必要である。
- ◆ 組織的な安全活動の効果を高めるためには、どのような組織体制を構築するか、参加の動機付け、役割分担、活動プログラムの実践・評価と改善、に関する**効率的な仕組みづくりに関する組織論的な評価**が不可欠である。また、こうした労働安全活動を効果的に推進するための**国の支援制度**についても研究する必要がある。

＜事故情報の一元化推進とデータ解析・事故防止 マニュアルの開発＞

◆厚生労働省が所管する農業に関わる労災保険特別加入に関わる事故情報、農林水産省が提供する死亡事故情報、JA共済連が提供する共済金支払データによる農作業事故の発生状況、警察庁の**事故情報等のデータを総合的に解析**して農家、関係機関に提供する取り組みを学会としてリードする。

◆こうした多様なデータを総合的に解析して負傷も含めた事故の実態、その原因を体系的に解明する。**統計的な事故実態解析手法、事故実態・発生要因の事例分析**を、社会科学、農業機械、農業団体、農業法人、社労士等の英知を結集して実施し、**リスクアセスメント・マニュアル、事故防止マニュアル、農家・関係者による事故防止対策学習のためのケース**を開発する。

<事故に対する補償充実と労災保険特別加入促進システムの開発>

- ◆ 農業者を対象とする**労災保険特別加入制度への低い加入率を高める方策**を解明する。
- ◆ これまで、日本農業労災学会では、JA組織と社労士が連携して、労災保険特別加入制度への**加入率を高める事例を集積・解析**してきたが、さらに事例を集積するとともに、事例の克明な解析に基づく**事例の理論化・一般化**を行う。この成果としては、地域の農家の条件、JAの特性に従って**社労士との合理的な連携の仕組みの構築方法**が解明される。
- ◆ 現行の**任意加入から補償内容を充実させた“原則加入”**をめざすため、農業関係の補助金採択時の要件とするなど**“実質的に加入強制となる仕組みづくり”**への見直し、「**特定農作業従事者**」の**補償範囲の拡充**について客観的に分析・整理して政策提言の基礎資料を提供する。

＜農作業安全対策から労災補償までを体系的にカバーする 法制度の整備に関する基礎情報の提供＞

- ◆ 農作業安全の実現に対する政策の役割は大きい。しかしながら、農業者に発生する事故への対策は農林水産省の管轄となっており、労働安全に深い経験をもつ厚生労働省との関わりは少い。そのため、**建設業など他産業の労働安全に対するノウハウ**が農林業に活かされることは少なかった。
- ◆ 農作業安全対策から労災補償までを体系的にカバーする体制づくりと、**法制度整備のあるべき方向を提言**することが農業労災学会には求められている。
- ◆ そのため、**農業労働安全に対するILOの取り組み、労災対策先進諸国の取り組み**情報を収集解析して、日本農業、農家、農業関連組織の特性に適合した**農業労働安全施策の確立に不可欠な基礎情報を提供**する。

＜農作業安全教育システム・教材の開発と有効活用方策の解明＞

- ◆ 農作業安全の実現における**教育の役割は重要**である。教育に豊富な経験を有する大学教員、都道府県農業大学校、農業高校の教員、農業機械士等が一体となって**農作業安全教育システム・教材の開発**が求められる。
- ◆ 農業労災学会では、こうした**教育システム・教材の開発に有効に活用できる情報**を収集・解析して提供する。
- ◆ 特に教育システム・教材の開発に際しては、**ILOや海外先進諸国の取り組み**が参考になることから、学会として積極的に情報収集して関係者に提供していく。


ご清聴ありがとうございました。

令和4年度入賞作品




 農林水産大臣賞



 農産局長賞



 日本農業新聞賞

入賞



出所 : <https://smartagri-jp.com/news/6645>